

おかげの大峰堂漢方



近畿大学薬学部
教授 久保 道德

西暦二千年に創立一〇〇周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。

昭和四十八年、真夏の太陽が照りつける日、私は薬学博士の学位記を授与され、その帰路に、これからは漢方がなぜ効くのかを証明することが自分に与えられた永遠のテーマだと心に決め、それから二十七年間、その道一筋を歩いてきました。

まず「瘀血」の代表生薬である「桃仁」の研究を始めました。その抗炎症成分はよく知られたアミグダリンではないと結論づけていた折、白浜温泉病院におられた有地滋先生がそれに反し、「桃仁の抗炎症成分はアミグダリンだ」と学会で発表されました。私にとっては先を越されて、なんとか有地先生にお会いできるチャンスがないものかと辛苦の日々であったところ、この願いをかなえて下さったのが、辻成典先生社長でした。

有地先生は、私の研究内容を認めて下さり「薬学の研究者と組んで研究せんといけん

ナ」とおっしゃったお言葉を大変嬉しく思いました。

辻先代社長が中学（大阪学芸大学附属平野中学校）の二年先輩であることもわかり、心の通い合うお付き合いをさせていただきました。

先々代の辻清六社長は立派な科学者で、沈香を炭の粉と混ぜて丸剤にした御香を発明された時の笑顔や、新工場でピカピカのステンレス製の生薬抽出機や製剤機の前で得意げに説明されていた御姿は忘れられません。



辻先代社長と香港で初めて見た本物の「白朮」のイラスト

その頃、近畿大学では医学部の開校と同時に「東洋医学研究所」

を併設する案が持ち上がりました。時の世耕政隆総長は私に、東医研の教授を遂行してほしいといわれ、辻先代社長と相談して有地先生をご推薦申し上げました。



辻先代社長と香港で臨床用に購入した「去脂麻黄」のイラスト

昭和五十年九月、東医研の診療部門の開始に先駆け、辻先代社長と臨床で用いる漢方薬の最高級品を香港に求め、その保存のために大峰堂では地熱と同じ十四度の最適室温を保つ倉庫をつくられました。その当時の生薬の標本が「大峰堂薬物研究所」に宝物として収蔵されています。初代社長から脈々と受け継がれてきた最高の品質を誇る医薬品を世に送り出してこられた大峰堂は、今後も疾病の予防と難治性疾患の治療用漢方製剤の製造に貢献され、人類の健康管理に重要な役割を果たしていただくよう、会社一丸となって頑張ってください。

大峰堂の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りします。

平成十二年四月吉日